

分担研究報告書

「ゲノム医療教育に関する研究」

研究分担者：高折晃史、遠西大輔、村松秀城、伊豆津宏二、真田 昌、鈴木達也、南谷泰仁、片岡圭亮、前田高宏

研究要旨

造血器腫瘍におけるゲノム医療の臨床実装を目指す中で、それを実施する医療従事者が、ゲノム医療の正しい知識を持つことが必要である。特に既に実用化されている固形腫瘍を対象としたゲノムプロファイリング検査（パネル検査）との相違点を明確にし、造血器腫瘍に特化したゲノム医療教育体制の構築が必要である。本研究分担班では、造血器腫瘍分野でのゲノム医療の均てん化の推進を目的とし、造血器腫瘍の診療に関わる医師のパネル検査・ゲノム医療に関する知識向上を目指し、その具体的方法として教育プログラム

A. 研究目的

造血器腫瘍分野でのゲノム医療の標準化・均てん化に向けた教育体制の構築を目指す。そのために必要な教育体制構築のための提言を行い、併せて現時点で実施可能な教育プログラムやコンテンツを具体的に作成していく。

B. 研究方法

令和2年度はゲノム医療教育班小会議を3回実施し（2021年1月22日、2月11日、4月18日）、ゲノム医療教育の推進の方向性と具体的な活動内容を議論した。その中で、造血器腫瘍におけるゲノム医療に対する、医師の認識や理解度を把握する目的で、アンケート調査を実施するし、その結果を踏まえた各種学術集会における教育プログラムの実施を議論した。

（倫理面への配慮）

これまでに検討した内容は研究機関の長等の承認、届出、確認等が必要な研究ではないと思われるが、引き続き個人情報や遺伝子情報等に注意を払って実施する。

C. 研究結果

令和2年度中に実施した具体的な成果としては、以下の2点があげられる。

1. アンケート調査の実施

日本血液学会の協力のもと、主に血液学会所属の医師向けにアンケート調査をwebにて実施し、599件の回答が得られた。現在、詳細な結果解析を行っている。

2. 日本小児血液・がん学会、日本血液学会、日本小児血液・がん学会、日本血液学会で、ゲノム医療の教育セッションを開催する。また日本小児血液・がん学会での教育セッションの開催も予定している。それぞれの発表内容を教育コンテンツとして資料化を目指す。

D. 考察

アンケート調査の結果は、今後の教育プログラムやゲノム医療全体の方向性を検討していく際の土台となる。そのため班全体で共有し適宜使用できるようにする。また教育コンテンツは、固形腫瘍のがんゲノム医療をはじめとした、既存のコンテンツを活用しつつも、造血器腫瘍における特殊性を考慮したものを作成するのが良いと思われる。これらの教育コンテンツの作成や配信などは、日本血液学会との共催で進めていく事が望ましいと考えられ、今後連携体制を進める。

E. 結論

造血器腫瘍に特化したゲノム医療教育体制の構築を引き続き継続していく。

F. 研究発表

1. 論文発表  
該当なし
2. 学会発表  
該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし